

東邦大学理学部主催「夏休み理科教室」

『カメに学ぶ野外生態学』

【講師】長谷川雅美 教授（生物学科）

【日時】7月26日（土）～27日（日）

【会場】江川湿地、利根運河（千葉県野田市）



2014年7月26日から27日にかけて、**科学部カメ班の生徒6名**が上記の講座に参加した。佐高生以外にも千葉県内の高校生5名が参加していたが、講師である東邦大学の長谷川先生の特別な計らいで、佐高生のみ施設に**泊まり込み**で実習を行った。長谷川先生のお他、大学の学生3名とスタッフ3名（看護師1名含む）、生徒の引率者2名、**総勢20名**で行われた。

【1日目】

13:30開始。参加者の自己紹介の後、参加者が3班に分けられた。イシガメ班、クサガメ班、アカミミ班の3班である。まず、「全国各地で増殖するミシシippアカミミガメの**繁殖力がなぜ大きいのか**」をテーマに、その要因について班ごとに話し合いが行われた。

続いて、野外でカメを捕獲するためのワナの設置が行われた。班ごとに、どこに仕掛けたらカメが入るかを考えながら設置した。18時終了。

夜は、佐高生とスタッフで、近くのスーパー銭湯で風呂に入った後、夕食をとった。施設に戻った後、昼間仕掛けたワナにカメが入っているかを調査。この時点で10個体程度のカメを捕獲。22:30頃、この会場にマットや寝袋を敷き、長谷川先生やスタッフとともに就寝。



長谷川先生のお話



ワナを仕掛ける①





ワナを仕掛ける②



夜間の採集

【2日目】

9時開始。まず、昨日仕掛けた**ワナを回収**し、アカミミとクサガメで計20個体以上を捕獲。一個体ずつ番号を付け、ドリルで甲羅に穴を開けて個体識別した後、細かな**計測**を行った。これが結構時間がかかった。



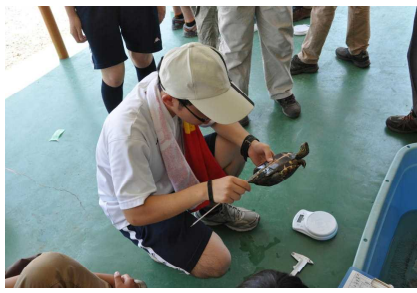
これから回収



ワナの回収作業



捕獲したカメ



カメの計測



午後は、班ごとに計測したデータをもとにカメの成長をグラフ化し、**カメがどのくらいまで大きくなるか**等をデータより推測した。アカミミガメは**生後数年の成長**が、クサガメよりも著しく大きいことがわかり、繁殖力の大きさの要因の一つを確認できた。



班ごとのグループワーク



発表

その際、佐高科学部カメ班が研究しているアカミミガメの**卵巣の発育**との関係が大きな関心呼び、**長谷川先生と佐高で共同研究**を行うこととなった。今回捕獲したアカミミガメ13個体はすべて佐高に持ち帰り、解剖して卵巣を調査することとなった。17時終了。電車で帰宅（約2時間）。**非常に充実した2日間だった。**